

## 重要文化的景観 エリア視察

問題や課題がないか！？



ナカズシの開発地

■毎年エリア内外を視察、景観の状況変化を把握しています。

5月18日、今年も水系全体の把握と、水質・生態状況、河川氾濫等の防災の観点から注意ポイントを視察。さらに、当地区に流れ込む安曇川沿岸用水の上流ポイント、堀川交差点付近から体育館前周辺の流路の確認を実施。また、空家や空地の発生状況、事業開発地の状況を確認しました。

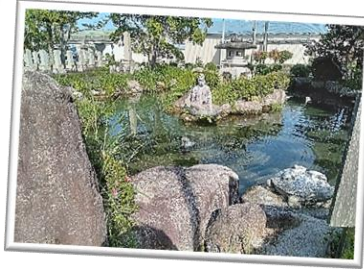
### 河川状況は・・・

●針江・霜降集落の湧水最上流エリア…川中にお地藏さんがおられるナカズシの湧水河川に黒く淀んだ藻が目立つようになり、カワナナも多数見られるようになりました。

●豊富な湧水エリア、正傳寺周辺…最近では小池川の藻の生育が早く、川掃除をしてもすぐに藻（ナガエミクリなど）が川面に伸びてきています。年中、豊富な湧水を湛える正傳寺・亀の池では、大きなコイに交じって、きれいな湧水環境にしか生息しない魚たちも見られます。

●中島内湖・針江大川起点付近…大繁殖していた外来種のオオフサモが無くなり、古くから見られたホテイアオイも姿を消しています。起点北側エリアは、ヨシが刈り取られて風景が一変しています。

\*排水機場は、琵琶湖総合開発事業において設置された内水排除施設（水資源機構管理）。集中豪雨などで琵琶湖の水位が内湖より上昇した時に水門を閉めて琵琶湖から内陸への湖水の流入を止め、中島内湖の水を琵琶湖に排水し、災害から田んぼや集落を守っています。



重要な構成要素 正傳寺・亀の池



針江大川起点付近北側



中島内湖から排水機場を望む

### 空家、空地、事業開発地等の状況は・・・

●霜降ナカズシから県道藁園熊野本線…広大な宅地と田んぼが開発され、観光農園や薬草園、宿泊施設の準備が進められています。

●長らく空地であった霜降会議所の隣地…空地の開発が始まりました。もともとあったカバタも再生され、地域に供されるとのことです。

●針江区内でも空家や空地が増加傾向あり…近年まで住宅や農業に使われていたいくつかの土地・建物が事業用として転用・再生が進められています。

★湧水の豊富な針江・霜降は、宅地としてだけでなく事業用地としても比較的人気があるようです。具体的な開発計画が地域に示されないまま、売却や開発が進められている事例もあり、防災・排水・交通対策、観光客の流入などについて、移住者や事業者とのコミュニケーションが課題となっています。

## 大川堰・石津川の水位調査

### 河川調査班が出動！

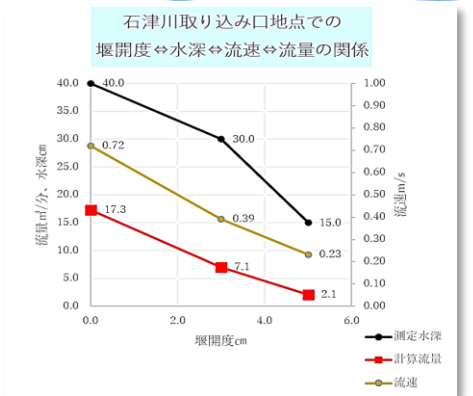
●針江と霜降の接点、行者堂の奥にある大川堰・石津寺井は、水と共に暮らすの最重要施設です。ここで大川と分岐する石津川は、昔から針江西出地区の防火用水、農業用水に使われ、各家のカバタにも出入りします。通常は、区担当役員等によって、水門の水量調節が行われています。豪雨の際は、緊急に水門を開放して雨水を放出しなければなりません。平時は、各個人が勝手に水位を調整するものではありません。

これまで、見た目での調整がなされ、明確なルールが無かったため、針江・霜降両区長と検討のうえ当協議会の河川調査班が出動し3カ所で水位と水量を測定。今後、渇水や長雨の時季など気候の変化も見据えて、適正な水位を設定します。ご理解ご協力をお願いします。



石津寺井（大川と石津川の分岐点）

●水門を5cm開けるだけで、石津川の取り込み口水量が8分の1以下に減る。



## 水辺景観 四季の便

「蛸年でした。」



5月30日 針江大川の蛸 (写真撮影：三宅進さん)

■5月10日、役員からホタルの知らせが舞い込みました。毎年、少しずつ早くなっているように思います。また、今年は、霜降の南川・水辺遊歩道、針江大川の公民館前・明光橋近くでも多くのホタルが舞う状況が見られました。梅雨入りが遅かったせいか、6月中旬には驚くほどたくさんのホタルが乱舞。近年まれにみるホタル年でした。

## 針江・霜降の水辺景観資料室



●水辺景観資料室では、重用文化的景観「針江・霜降の水辺景観」関連の資料・文献、古文書や絵図、研究者や学識者の研究論文、その他新旭や高島市、滋賀県の歴史や風土にかかわる書物などを所蔵展示しています。



### 資料・文献

■重用文化的景観「針江・霜降の水辺景観」の選定に至った調査報告書、今後の整備や保存に関する計画書、金田章裕先生（京都大学名誉教授・人文地理学）をはじめとする研究者の書物、大学関係者の調査・研究論文など文化的景観にかかわる資料や文献を所蔵しています。

### 古文書類

■水辺景観資料室には、「政所下文案 木津庄進之 順徳院御代 延暦寺政所」という表題の鎌倉時代に遡る木津荘（比叡山延暦寺の荘園）に関する記録をはじめ、江戸時代の田畑からの収穫や年貢、湖岸の開墾地「大久保新田」に関する記録など、多数の古文書類が残っています。また、「針江村・葎地絵図」はじめてとする葎地やエリ漁に関連する絵図など、琵琶湖沿岸の具体的な状況を知ることができる資料も保管しています。

\*木津荘（木津庄）：

平安時代の保延4年（1138年）に成立した比叡山延暦寺の重要な荘園、天台座主直轄の山門領荘園（千僧供領）。範囲は、木津・日爪・岡・五十川・米井辻沢・田井・森・針江・霜降で、琵琶湖岸から饗庭野まで。当時すでに、木津は若狭国と近江国、都を結ぶ琵琶湖交通上の要衝でした。



針江村地籍図